

[7/19 宮原地区：小国小学校体育館]

Q：財政状況について

町債の増加について説明があったが、改善方法として無駄な支出の見直しがあると思うが、どのように行っているのか。

A：支出が適切であったか決算時に精査し、また次年度予算策定の際にも事業が適切か査定を行っている。町債の償還に関してはもちろん重要であるが、基金の積立ても重要であるため、総合的に考える必要がある。

Q：移住できる住居について

2060年時点で人口5,000人を目標にとの説明があったが、現在高齢化が進んでおり若年層の町外転出も多いが、どのような対策を行うのか。移住したいという声も聴く機会があるが、住居がないように感じる。新設する必要があるがその予定はあるのか。

A：主に移住定住を促進することで対策を行っていきたい。空き家バンク等利用して、提供された家を改修し住んでいる方も大勢いる。移住者用の住宅は費用が高額なこともあり、新設するつもりは現時点ではなく、集落にある空き家を利用してもらおう。これは、その地域になじんでもらうという意味でも効果的であると考えている。

Q：地熱の利用について

現在ある蒸気を利用した木材乾燥施設は、住民みんなが利用できる施設ではない。全町民が利用できる蒸気を利用した乾燥施設を作ってはどうか。

A：具体的には決まっていないが、将来的には蒸気を利用した暖房設備のあるビニールハウスや乾燥施設を構想している。

Q：地域活動交付金について

地域活動交付金について、一世帯当たり1割分に相当する300円が削減された。説明にあった地域の活力・推進力を削ぐ形となってしまう、説明内容と相反するものではないか。

A：厳しい財政事情となっており、他の補助金と同様、地域活動交付金も1割の削減を行った。住民の皆様と一緒に乗りきっていきたいと説明している通り、ご理解ご協力いただきたいところである。

Q：平成 28 年熊本地震に関して他

幸いなことに当町は比較的軽微な被害で済んだが、南阿蘇のような被害を受けた際に適切に対処できたかは疑問である。今後の防災体制はきちっとしていただきたい。説明ではまちづくりの目標として数値目標を多く挙げていたが、具体的な対策を示してもらいたい。もちろん取り組んでいるとは思いますが、住民レベルではそのようには感じられない。

A：防災体制については、今回の熊本地震の対応に関しての検証を行っていくこととしている。そういったことを踏まえ、よりの確な防災体制に繋げていきたい。

町づくりの取り組みに関する町民への周知・PR について、今後積極的に発信していくように努めていく。

Q：栄養士について他

昨年度栄養士を採用したのでとても期待していたが、もっともっと住民の中に入って食事から行える防疫等の啓発活動を行ってほしい。

また、機会があるごとに言っているが、ホームページを町外の人目を引くよう改善してほしい。

A：ご指摘を踏まえながら改善を行っていききたい。

Q：目標の立て方について

説明で 2060 年に 5,000 人以上の人口を維持するとあったが、説明された目標は、このような長期的な目標ばかりと感じられた。もっと短期的・中期的な目標を立てる必要があると思う。

A：今回は限られた時間ということもあり大きな目標のみをお示しした。もちろんそれに伴い細分化された目標を立てており、取り組んでいるところである。

Q：開発センターについて

開発センターが利用できなくて、様々な団体が活動できないと聞いている。今後の方向性はどのようなものか。

A：教育委員会等現在も継続利用している部分を移転させる算段を行っているので、次の臨時議会で一定の方向性を示すこととなる。しかし、その後の方向性は決まっていない。

Q：座談会の開催について

今回の座談会は非常にうれしい。町としては様々出たこのような意見をとりあえず今回は聞いた、ということになると思うが、今後このような場を何度も設けて、意見・質問があったことの経過等を報告してほしい。

A：今後また行うかどうかは白紙であるが、報告のために開くことはないと思う。広報誌があるのでそこに載せるなどして報告ができればと考える。

Q：部・組の組織制度について

現在人口減少により3人しかいない組があるなど組が多すぎると思う。組の数を減らして一つの組当たりの人数を増やすことにより、様々な意見のやり取りや活性化につながり、地域活動がしやすくなると思う。

A：組の中には組の構成員共通の財産や区役などその組独自の取り決めなどがあり難しいかもしれないが、貴重な意見としてお受けする。

[7/20 北里地区：旧北里小学校体育館]

Q：災害関係の証明書について

罹災証明と被災証明の違いを教えてください。

A：住居、建物の被災に対しては罹災証明書、テレビなどの家財に対しては被災証明書を発行している。

Q：町の財政について

財政状況について、基金が減少し、町債が増加している状況である中で、収入増や歳出減といった財政計画を立てる必要があるのではないかと。

A：毎年予算組の際に、各種事業を見直し、事業をふるいにかけて予算編成を行っている。また、国や県の補助金で有利な条件のものを利用して予算組みをしている。町債の償還も早く返還するということは、返還額が多くなるということであり、その年の他の予算の財源がなくなってしまう。財政計画も踏まえながら、総合計画やその他の計画を進めるに当たって、財源を精査しながら財政運営を行いたい。

[7/29 上田地区：旧万成小学校体育館]

Q：副町長に対して

副町長へ小国町で感じたことを教えてください。

A：町の人が良い。この町をどのように発展させようかいつも考えている。小国町は人を虜にする町だと思う。ないものはないので、あるものを探して発想の転換が大切だと思う。

Q：小国町の人には閉鎖的なところがあると思うが、頑張ってもらいたい。

Q：地元地区について

上田に何も無い。上田に（鍋ヶ滝のような場所が）何かないのか。

A：自然がある。集落らしい集落が残っているため、移住者の中でいいですねと言われる方もいる。上田地区には建物はないが、一緒に夢を描いていければ、工夫をしていければと思っている。

Q：高齢者への支援について

南小国町は、老人会で一泊の旅行を行っている。小国町ではそういった補助はないのか。

A：小国町では旅行への支援はないが、他の部分で支えていくつもり。

Q：小国町の空家対策について

小国町でアパート暮らしをしている知人から、空いている空き家はないか尋ねられ木魂館を紹介した。しかし、木魂館はすでに小国町に住んでいる人には紹介できないと言われた。移住者の方にしか紹介できないとのこと。小国町に住んでいる人にも空き家を紹介してはどうか。

A：そもそも空家バンクの紹介制度は、移住者対策事業として実施しているもので、情報量が少ない町外の方を優先している。空家の登録数も少ない現状で、町内の方を対象とするのは難しい。

Q：町債額について

配布資料中、P9の平成27年度末の町債額51億円は正常な金額なのか。

A：町債の残高については、平成15年度末の5,449百万円をピークに減少してきたが、学校施設整備等の事業により平成27年度末の起債残高が5,159百万円となっている。町債の償還金について、普通交付税でその元利償還金の7割分が措置される有利な起債である過疎対策債等をできる限り活用している。町債の償還金である公債費等の財政負担状況を表す将来負担比率は、イエローカードを意味する早期健全化基準より相当低い数字となっている。今後も、町債については、借入れを抑えつつも、借入れせざるを得ない場合は有利な起債を活用していく。

Q：保育園について

小国町で病児保育を考えてくれないか。女性が働きやすくなる。

A：今後、病後児保育の設置を考えている。

[8/1 西里地区：西里多目的集会所]

Q：住民の安心安全について

説明会の中で安心安全のキーワードが少なかったが・・・。

A：すべてにおいて安心安全が基本であることに変わりはない。今後、地震対応の検証作業に入っていく予定。防災設備・備品の充実も図っていきたい。

Q：災害情報について

災害時のGPSの活用による情報の共有を行ってほしい。

A：地震後の大雨で孤立する集落もあったため検討していきたい。

Q：国民健康保険について

国保税が上がるのか。

A：条例改正での議会承認案件なので明言できないが、相応の負担を求めながらも、健康づくりを併せて行っていきたい。

Q：町内放送について

同報無線について、話し手の話し方が悪く、聞きづらい。

A：職員研修を行っていく。

Q：災害時の避難所について

避難所が西里多目的集会所から西里小に変更になったが、高齢者等には遠く避難しづらいため、集会所の耐震性を高めてほしい。

A：県内各所の避難施設でも同様の問題が生じているため、今後の課題として検討していく。

Q：農作物の鳥獣被害対策について

電気牧柵からメッシュ柵へ隣県では切り替えが進んでいるが、小国町では何故できないのか。

A：小国町では防除よりも駆除に力を入れている。メッシュ柵にはかなりの予算が必要であり、また、施工及び管理は地元になるので実施可能かという問題もある。

Q：町受入の災害支援物資について

支援物資はどうなっているのか。無駄になっていないのか。

A：せっかくいただいている物資なので、無駄にならないよう努めている。社会福祉協議会等で有効に活用してもらおう予定もある。

Q：町内の下水道整備について

下水道が他地域では進まないのはなぜか。

A：政策転換は否めない。他市町村で、下水道を完備したところは赤字経営が多いことがその理由である。それにより、町では合併処理浄化槽設置を推進している。

Q：隣地安全対策事業について

危険木除去の事業に申請しているがやってもらえない。

A：要望が多い。地震の影響で特に危険なところを優先に実施している。

Q：地熱発電の利用について

地熱発電後の温水利用（農業用ハウスなど）が出来ないか。

A：検討したい。

Q：地熱発電後の温水を岳の湯のロードヒーティングに利用できればよいのでは。

A：検討したい。

Q：山村開発センターについて

山村開発センターは今後どうするのか。

A：木造で建て替えを検討している。

Q：町内放送（夏休み期間の児童・生徒の帰宅誘導）について

夏休みの18時の同報無線の時間を早めてほしい（ニュースが聞こえない）。

A：18時少し前に放送することもできるので、時間を変更するようにしたい。

Q：役場の業務について

無駄のない事務作業に努めているのか。（同じような通知が2通届いたことがあった。）

A：出来る限り改善していきたい。

[8/2 下城地区：旧下城小学校体育館]

Q：避難所について

サポートセンター悠愛も親子向けに開設してくれたが、大変助かった。

Q：下城のイチョウ前・下城滝の見学位置について

下城滝が見れる位置に鉄柵があり見れない。このままずっと設置したままにしておくのか。事前に地元協議や意見徴収をしてほしかった。

A：今回の地震での落石対策をしないと通行止め解除はできない状況。現在は、山林に入る一部の人のみを国道 212 号線側から通行させているが、当面は危険防止のため通行止めとしている。事前説明ができなかった点については、これから災害査定を受けることとなっているためである。

Q：町道秋原田原線について

秋原田原線の通行止め解除の見通しは。

A：今後、査定、設計、工事という順序で進めていくが、地震の査定が年末になる見込みで、通行止め解除の時期は見通せない状況である。

Q：人口減対策について

出生率だけの問題でなく、育てる親世代の人口増が大切なのではないか。「仕事もないし、小国に帰ってこなくていい。」と子どもに話している人も実際にいるようだ。

A：小国町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、仕事の創生・働く場づくり・働く環境づくりをテーマのひとつとしている。

[8/3 黒淵地区：旧蓬萊小学校体育館]

Q：避難所について

避難指示が出た際に蓬萊小学校に向かい、グラウンドに駐車しようとしたが、雨の影響で土が非常に緩い状態になっており、停車したら抜け出せないと判断し引き返した。グラウンドゴルフ等で使用していると聞いているので難しいかもしれないが、例えば砂利を入れるなど対応していただけないだろうか。

A：避難指示ではなく避難勧告を出した際の話だと思う。例えば、グラウンドゴルフで使用しない場所には砂利を入れるなど考慮する余地はある。地元住民と協議して方向性を定めていきたい。

Q：町政座談会について

町政座談会を要望して早速の実現は非常にうれしい。これは役場組織と町民をつなげる大事な場と思うので、ぜひ今後も続けていくことをお願いしたい。

A：検討していきたい。町民と接する機会は必要と思っている。

Q：避難所について

今回の地震では、黒淵地区の住民は蓬萊保育園に避難するようになったが、避難者がピークになると蓬萊保育園では少し手狭であると感じた。しかし、蓬萊小学校体育館は水銀灯の揺れが激しく落下の危険性もあり、また電球が切れているものもあった。さらにトイレは和式しかないうえに、トイレに行くのも一度体育館を出る必要がある等非常に不便である。こういったことに対応していただき、蓬萊小学校体育館を避難所として使用したい。

A：専門家の意見を聞きながら対応していきたい。貴重な意見としてお受けする。

Q：砂防ダムについて

犬防田にある砂防ダム（スリットダム）の2か所の穴のうち下の穴が堆積物で埋まっているので対応をお願いしたい。

A：当該ダムは県の管理下にある中で、町として状況は把握しており、既に熊本県に堆積物の除去として要望を上げているので、もう少しお待ちいただきたい。

Q：薪ボイラーについて

説明にあった薪ボイラーだが、薪を燃やすので地球温暖化の観点での影響はないのか。

A：植物由来のバイオマス燃料は、地球温暖化防止、循環型社会の構築に役立つ資源として注目されている。バイオマスを燃焼すると化石燃料と同じようにCO₂を発生するが、植物は成長過程で光合成によりCO₂を吸収しており、ライフサイクル全体でみると大気中のCO₂を増加させず、収支はゼロとみなされる。

Q：道路改良について

去年は鍋ヶ滝に20万人の人が来て、町には4千万円程度の収入が入っていると思う。おそらく他にこれほどの収入となっているところは町内にないと思う。しかし、連休中は鍋ヶ滝の観光者によって渋滞が起き、東蓬萊の住民は家に帰ることも困難となった。また、今日まで事故はないが月に数件は脱輪が起きており危険である。したがって、下滴水線の道路改良工事を早急に行ってほしい。滝さえなければ道路改良も、このような不便なこともなかったと思ってしまう。

A：当然早急に完成させなければならないと思っている。去年は社会資本整備総合交付金が減額された影響で工事のスピードが落ちてしまった。鍋ヶ滝は地元の活性化につながるように利用するなど検討して参りたい。